

# 第1章 策定の趣旨

## 1. 策定の背景

### (1)「環境との共生」と都市計画

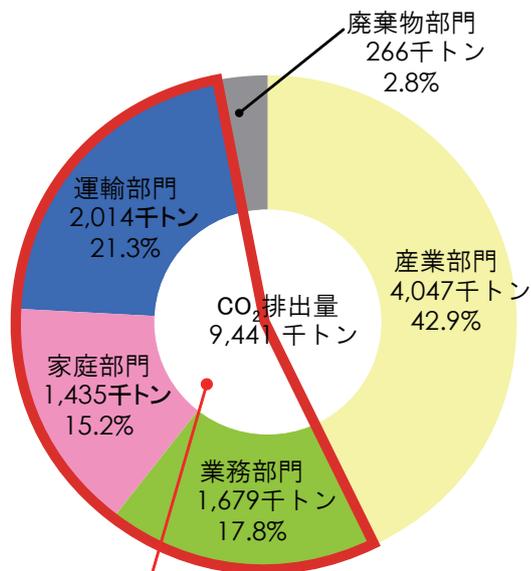
温室効果ガスである二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の排出量の増加により、地球温暖化が世界的な緊急に対応すべき課題となっています。

都市におけるCO<sub>2</sub>排出量のうち、約5割が都市計画に関連の深い運輸部門や家庭・業務部門から排出されていると言われており、国土交通省が、地方自治体における低炭素都市づくりの取り組みを支援するための技術的指針として、「低炭素都市づくりガイドライン」を平成22年8月に策定・公表しました。そして、平成24年2月には、地方自治体による低炭素まちづくり計画の作成及びこれに基づく特別の措置などを定める「都市の低炭素化の促進に関する法律案」が関

議決定されています。

また、六甲山系南部の市街地では、緑地の減少などによる生物多様性への影響やヒートアイランド現象が危惧されており、公共空間だけでなく、市民や事業者等が所有する土地や建築物などにおいても緑を保全・創出する取り組みが求められています。

本市では、環境施策を網羅した総合的な計画である「神戸市環境基本計画」が平成23年2月に改定されていますが、都市計画として、持続可能な環境配慮型都市をめざし、環境と共生した都市空間の再編に取り組む必要があります。



神戸市でも国と同様に都市計画に関連の深い部門(運輸、家庭、業務)から約50%のCO<sub>2</sub>が排出

運輸部門	自動車、船舶、鉄道、航空
家庭部門	家庭での電気・ガス・灯油の消費
業務部門	事務所、店舗、銀行、病院、ホテルなど
産業部門	製造業、建設業、農林水産業など
廃棄物部門	一般廃棄物、産業廃棄物(プラスチック類、廃油などの焼却)



スマート都市づくり計画では、**交通部門※**、**家庭部門**、**業務部門**を対象とします。

※交通部門とは、運輸部門のうち、自動車(物流を除く)及び鉄道による市内の移動をさします。

## (2) これからの「都市計画」の役割

これまでの都市計画は、急速な人口や産業の都市への集中という時代の要請に対応するため、都市全体の土地利用の秩序を保ちながら、良好な都市基盤(道路、公園、上下水道など)を整備し、新たな都市空間を構築する役割を担ってきました。

しかし、都市を取り巻く社会経済情勢が大きく変化し、都市は拡大成長期から成熟期へと移行しています。これからの神戸の都市計画は、現在の都市空間の質を高め、マネジメントすることで、「都市空間を再編」していく役割へと転換することが求められています。

このような中、平成23年3月に策定した「神戸市都市計画マスタープラン」では、これからの神戸の都市計画に求められる視点の一つとして「環境との共生」を掲げました。そして、環境への負荷をおさえ自然と調和して、きめ細やかに都市空間の質を高めること(これを本計画では「スマート都市づくり」といいます)をめざし、「環境共生(緑・水・エネルギー)」に関する都市計画の方針を定めています。

そこで、この方針を実現するための計画として、「神戸スマート都市づくり計画」を策定しました。

## 「スマート都市づくり」とは？

「スマート」という言葉には、以下のような意味があります。(出典:広辞苑第6版)

1. からだつきや物の形が細くすらりとして格好がよいさま。「一な車体」
2. 身なりや動作などが洗練されて粹なさま。颯爽(さっそう)。「一な態度」

また、英語のsmartには、本来、「賢い、利口な、才気のある、機知に富んだ、効果的な」という意味があります。最近では、情報通信技術を活用することによって、電力の需要と供給を常時最適化する「スマート・グリッド(賢い電力網)」も話題になっています。

「スマート都市づくり」とは、環境への負荷をおさえ自然と調和して、きめ細やかに都市空間の質を高めるため、

- ・都市機能がコンパクトにまとまった都市構造
- ・六甲山系などの都市の緑や水環境などの自然環境との調和
- ・環境負荷を低減するエネルギーの利活用

という視点で「スマート」に都市空間を再編することです。



## 2.目的と位置づけ

「神戸市都市計画マスタープラン」では、都市の低炭素化などの環境共生(緑・水・エネルギー)に関する都市計画の方針として、

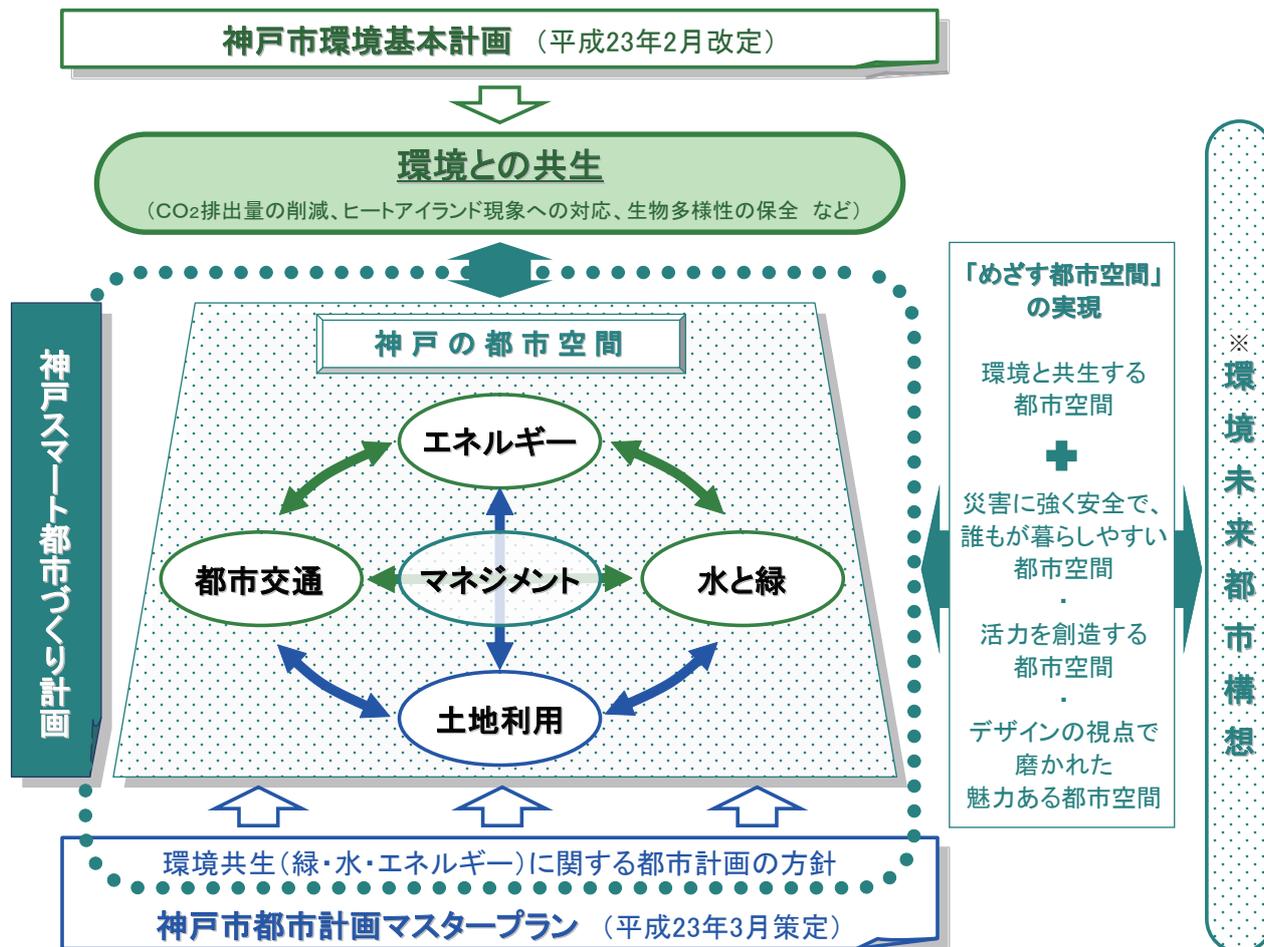
- (1) 環境負荷の少ない都市構造の推進
- (2) 良好な緑地環境や水環境の保全・育成と風の道の形成
- (3) エネルギーを効率的に利用する空間づくりを掲げました。

本計画は、これらの方針を実現するため、「神戸市環境基本計画」をはじめとする関連分野の施策

との連携のもと、神戸の都市空間の特長を活かして、環境と共生した土地利用、都市交通、エネルギー、水と緑を、市民・事業者と行政との協働と参画により総合的にマネジメントすることを目的として策定します。

これらの取り組みにより、環境との共生とあわせて、災害に強く安全で、多様なライフスタイルにあわせて誰もがいきいきと暮らしやすく、活力を創造し、デザインの視点で磨かれた魅力ある都市空間をめざします。

そして、「環境未来都市構想」と連動し、これらの取り組みを通じた都市間競争力の向上をめざします。



※環境未来都市構想：神戸の恵まれた環境を次世代に引き継いでいくため、神戸の持つ強みを最大限に活かした、神戸の中長期的なあるべき姿。

神戸スマート都市づくり計画の目的と位置づけ

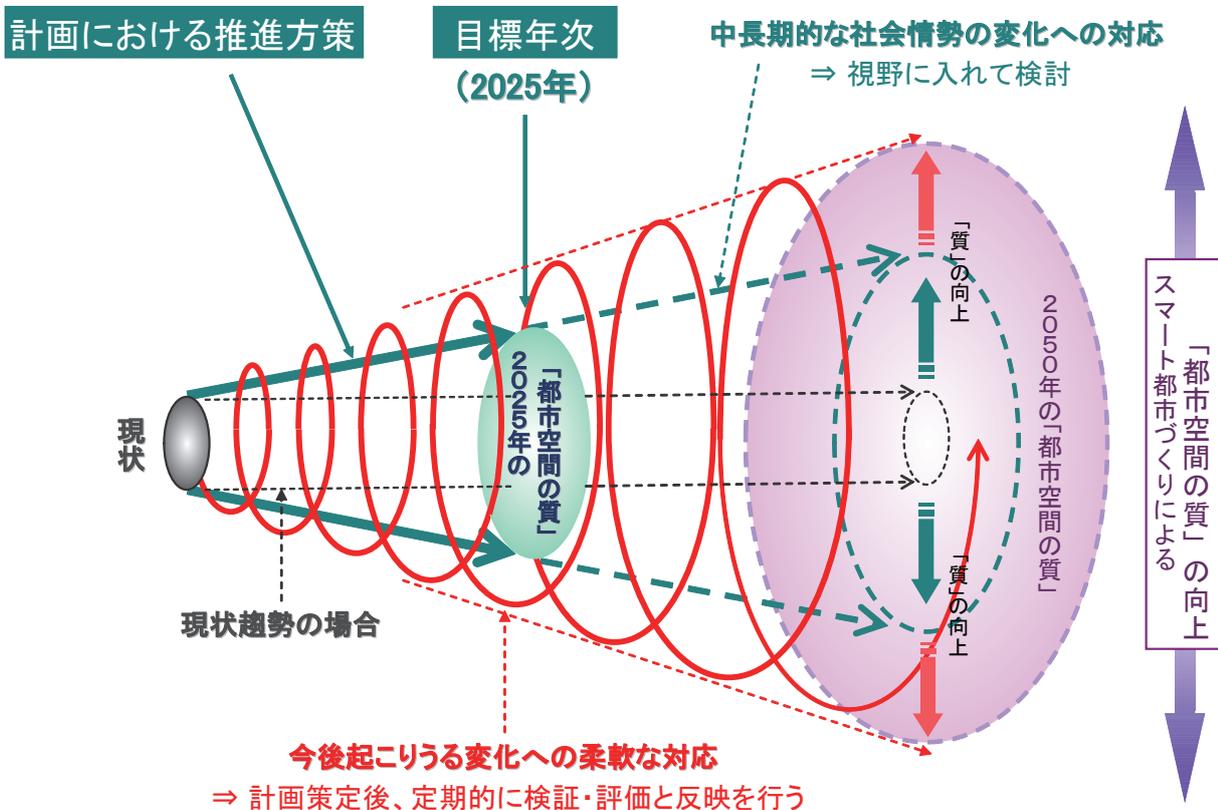
### 3.目標年次

本計画の目標年次は、「神戸市都市計画マスタープラン」の目標年次と同じ2025年(平成37年)とします。

ただし、都市施策によるCO<sub>2</sub>削減効果の発現には時間を要することから、本計画における推進方策は、人口減少・超高齢化の進行や、更新時期を迎える建築物・都市施設の増加、環境分野の技術開発の進展、市民・事業者の環境意識の変化など、中長期的

(2050年)な社会情勢の変化を視野に入れて検討します。

そして、産業構造の変化による大規模な土地利用転換や、エネルギー分野での大幅な技術革新など、今後起こりうる変化に柔軟に対応するため、定期的に計画の検証・評価と反映を行います。



神戸スマート都市づくり計画の目標年次